

2017. 10. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成 29 年 11 月 7 日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《10 月のおはなし会で使った本》

『どんぐりころころ』 チャイルド本社 2016 『へびくのおさんぽ』 いうひろし/作・絵 鈴木出版 2006

『ともだちだーれ?』 得田之久/脚本 和歌山静子/絵 童心社 2006

『かじだ、しゅつどう』 山本忠敬/さく 福音館書店 1991

★学校図書館セミナー

○日時：平成 29 年 12 月 2 日（土）13：00～15：00 ○場所：山口県立山口図書館 第 2 研修室

○講師：武田 江美子氏（岡山市立大野小学校 学校司書）

○内容：講義「子どもたちの読書や学びのために『学校図書館だから』できること」

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書（学校図書館支援員等）、学校図書館担当事務職員等

○定員：60 名（要申込み・先着順） ○申込方法：平成 29 年 11 月 24 日（金）までに、電話、FAX、E メールで申込み

★第 3 回新刊児童書閲覧会

○日時：平成 29 年 12 月 17 日（日）13：30～15：30

○場所：山口県立山口図書館 第 2 研修室 ○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等

○定員：30 名（要申込み・先着順） ○申込方法：平成 29 年 12 月 15 日（金）までに、電話、FAX、E メールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 E メール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き <絵本一乳幼児から>

『スープになりました』 彦坂有紀/作 もりといずみ/作 講談社 2017.9 ¥1200

にんじんがとろーりスープになって、「ごっく」。トマトがさらさらスープになって、「こくこく」。とうもろこしのとろとろのスープは、パンをつけて「ふーふーぱくっ!」。色とりどりの野菜たちが、美味しそうなスープに変身。読めばおなかいっぱいになる、野菜とスープの食べ物絵本。浮世絵の手法で摺られた木版画絵本シリーズの第 4 弾。

<絵本一3, 4歳から>

『わたしおべんきょうするの』 角野栄子/作 吉田尚令/絵 文溪堂 2017.9 ¥1300

クリちゃんが「わたし おべんきょうするの」って言ったら、犬のムムやぬいぐるみのブタコさんがやってきて、楽しい学校ごっこが始まった。クリちゃんはエンピツでひらがなを、犬のムムは前足で「あし」という字を、ブタコさんは鼻で「はな」という字を書いたよ。「おべんきょう」を楽しんだ、みんなの誇らしげな姿がほほえましい。就学前の子どもにすすめたい絵本。

『てをつなぐ』 鈴木まもる/作 金の星社 2017.8 ¥1300

ぼくは母さんと、母さんは妹と手をつないだ。妹は父さんと、父さんはおばあちゃんと手をつないだ。いろんな手がどんどんつながっていく。つないだ手と手は、世界中の人たちや、地球上の生き物たちともつながって…。手をつなぐってあったかくてうれしいね。丁寧に描かれた、様々な職業の大人や民族衣装の人たちの絵も楽しい。思わず誰かと手をつなぎたくなる絵本。

<絵本一5, 6歳から>

『なんにもせんじん』 唯野元弘/文 石川えりこ/絵 鈴木出版 2017.8 ¥1300

働かずに遊んでばかりいる若者が、小さな男が入ったつぼを拾った。何にもしないで遊んでいるもんが好きだという小さな男は、若者が遊べば遊ぶほど大きくなり、すぐに若者は家の外で寝る羽目に。でも若者が稲刈りの手伝いをきっかけに働きたすと…。働くことの楽しさがユーモラスな展開で伝わる。山口県に伝わる昔話の絵本。文章担当者は山口県出身。

『きみはライオン! たのしいヨガのポーズ』 ユ・テウン/作・絵 竹下文子/訳 偕成社 2017.9 ¥1500

緑の庭に集まった、いろいろな肌の色をした子どもたち。朝の光をあびながら、ゆっくりと体を動かしてみよう。すわったり、はらばいりになって胸をそらしたり、立って手のひらをあわせて頭の上にあげたりしてみよう。そしたらみんな、いろんな動物になれるよ。かわいイラストとシンプルな言葉により、子どもと一緒にヨガのポーズをやってみたくなる絵本。

<絵本一小学校低学年から>

『のら犬ボン』 たじまゆきひこ/作 くもん出版 2017.9 ¥1600

東京への転勤が決まったとしおの家族。父さんは「飼い犬のボンは友達の家で預ける」と言った。でも本当は、島にボンを捨ててきた。捨てられたボンは、車にひかれて大けがをし、動物愛護センターにつかまった。一年後、田舎に戻ったとしおの家族は、島でボンを探すが…。淡路島の野良犬や、動物保護に関わる人々への取材をもとに、人が犬を飼うことの責任を鋭く問いかける絵本。

<読み物一小学校低学年から>

『ともだちのときちゃん』 岩瀬成子/作 植田真/絵 フレーベル館 2017.9 ¥1100

友だちのときちゃんはおしゃべりが苦手。わたしはときちゃんと正反対でおしゃべり大好きで、ときちゃんの言いたいことが分かるから、代わりに言ってあげているよ。ある日、ときちゃんが「生きていると昨日とはちょっとだけちがっちゃっているよ」って言った。それってどういうこと？大好きな友だちを理解しようと心を寄せる少女のお話。水彩のイラストが穏やかな雰囲気をかもしだす。

<読み物一小学校中学年から>

『うっかりの玉』 大久保雨咲/作 陣崎草子/絵 講談社 2017.9 ¥1300

階段をおりて台所に来たものの、何をしに来たのか忘れてしまったおばあさん。思い出すために階段に戻ると、青い着物の女の子がすわっていて何かを懐に隠した。実はそれがおばあさんの落とした「うっかり玉」だという。それを返してもらわないといつまでたっても、何をしに来たのか思い出せない…。表題作をはじめ、おじいさん、おばあさんを主人公とした短編6編を収録。

<読み物一小学校高学年から>

『ビブリオバトルへ、ようこそ!』 濱野京子/作 森川泉/絵 あかね書房 2017.9 ¥1300

小5の柚希は、あこがれの幸哉先輩と一緒に図書委員になれて大喜び。図書委員で実施するビブリオバトルでチャンプ本を勝ち取り、幸哉に注目してもらおうと張り切る。しかし、同じ図書委員の瑠衣は、「読書に勝ち負け持ち込むの、やだな」とビブリオバトルに抵抗があるよう。どうしたら、この魅力を伝えることができるのか。委員会活動に役立つヒントが満載の1冊。ブックリストつき。

『わたしの苦手なあの子』 朝比奈春子/作 酒井以/絵 ポプラ社 2017.8 ¥1300

転入早々、ぶっきらぼうな態度をとるリサと、そんなリサのことが苦手なミヒロ。リサには足の火傷跡のせいで前の学校で不登校になったという秘密がある。ある日「ぐずぐず悩むより声をあげた方が生きやすい」と、公園で出会ったおじいさんの言葉に、リサは一歩を踏み出そうと決心する。二人の女の子が、同じ出来事をそれぞれの立場で順に書き綴った、成長と友情の夏物語。

<読み物一中学生から>

『南風(みなみ)吹く』 森谷明子/著 光文社 2017.7 ¥1600

瀬戸内海の五木島に住む高校3年の航太は、ひょんなことから俳句甲子園出場を目指す日向子に協力することに。親友の恵一を引っ張り込み、男女5人のメンバーが揃い、松山市内で全国各地の高校生と対戦。和菓子屋を継ぎたいという航太、大学進学を考える恵一、それぞれに親の猛反対を受けながら自分と小さな島の将来を考える。俳句を通して内面を掘り下げる、青春エンタテインメント。

『わたしがいどんだ戦い1939年』 キンバリー・フルベーカー・ブラッドリー/作 大作道子/訳 評論社 2017.8 ¥1600

母の虐待により10歳までロンドンのアパートに閉じ込められていた足の不自由なエイダ。弟から学童疎開の話聞いた彼女は密かに歩く練習をし、弟と一緒に田舎へ。初めてだらけのことに挑戦し、自分らしく生き始めたエイダと、姉弟を受け入れたスーザンが、互いを理解していく過程に心温まる。偏見に挑み、トラウマを乗り越え、愛される存在へと成長する少女の姿を描く。

『ファニー13歳の指揮官』 ファニー・ベン・アミ[著] ガリラ・ロンフェデル・アミット/編 伏見操/訳 岩波書店 2017.8 ¥1500

ある夜、フランスの秘密警察にスパイと見られ、幼い妹たちの親代わりとなったファニー。子どもたちをスイスへ逃がす計画の中、責任者が逃亡し、13歳の彼女が大勢の子どもたちの命を預かることに…。機転を利かせ、何度も危機を乗り越えて生き延びた、勇気とリーダーシップあふれるユダヤ人少女の実話。エピソードで近況が語られる。2017年8月公開映画の原作。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『かくれてばかり』 海野和男ほか/写真 嶋田泰子/文 童心社 2017.9 ¥1900

花そっくりのハナカマキリ、からだの色をかえる天才アマガエル、木そのものにはしか見えないオオコノハズク、頭のちょうちんで魚をおびきよせるアンコウ…。まちぶせ名人の生き物たちを紹介する写真絵本。食べるため、食べられないために繰り返される、生きものたちの必死の知恵比べの様子をテーマにした「いきものみつけた」シリーズ。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『子どものためのニッポン手仕事図鑑』 大牧圭吾/監修 オークラ出版 2017.9 ¥2000

木工、帆布かばん、塗り物、足袋…。日本の未来に残していきたい手仕事を、職人さんのインタビューや写真とともに紹介していく図鑑。職人さんに聞いた質問の答えや生の声に、職人さんの思いや心意気を知ることができる。掲載されたすべての職人の動画が観られるURL付き。4年国語科「千年の釘(こいどむ)」5年社会科「わたしたちの生活と工業生産」で活用できる。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『考えよう!子どもの貧困』 中嶋哲彦/監修 PHP 研究所 2017.9 ¥3000

2008年ごろから知られるようになった「子どもの貧困」という言葉。「子どもの貧困」とは何か、子どもがどのような状態におかれていることをいうのか、貧困をなくすために政府はどんな取り組みをしているのか等について、多くの資料を基に丁寧に説明する。巻末に、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」、「子供の貧困対策に関する大綱(抜粋)」を掲載。

<ノンフィクション一中学生から>

『漫画君たちはどう生きるか』 吉野源三郎/原作 羽賀翔一/漫画 マガジンハウス 2017.8 ¥1300

亡くなった父親の代わりに15歳の甥っ子の人間の成長を見守る叔父のノートという体裁で書かれた、人間としての生き方を問う書。学校での体験や発見など、少年のエピソードの部分を漫画で描き、伝えたい考えの部分は原文を抜粋する形で展開していくので、筆者の主張がわかりやすく伝わる。80年間読み継がれた名著を現代の若者に届けるべく漫画化。テキスト版も同時刊行。

<研究書>

『馬場のぼるねこと漫画と故郷と』 馬場のぼる/著 こぐま社 2017.8 ¥3000

『11ぴきのねこ』が誕生して50年。その誕生のいきさつ、ラフスケッチ、色の秘密を紹介すると共に、作者・馬場のぼるの没後発見された膨大な量のデッサンやスケッチ、絵本以前の漫画作品、旅のルポなど多彩な作品を基に、生い立ちから晩年まで、作者の世界を丸ごと紹介する。こぐま社の編集者が選りすぐった、幼少期から晩年に至る多くの資料を、A4版のフルカラーで掲載。